

不服審査請求行動を実施～不服審査請求書 102 件を提出

武内代表幹事 自治体に対する保険料引き下げの運動を呼びかけ

県社保協は9月5日(月)、後期高齢者医療、介護保険、国保の不服審査請求の提出行動を実施しました。市役所前の出発集会で、武内代表幹事は、物価高騰でくらしが大変な中で保険料の負担はこれ以上認められないとし、自治体に対して保険料の引き下げを求める運動を始めようと呼びかけました。

市役所前から県庁正面前までデモ行進を行い、その後、代表



5人と事務局1人

が県への要請をおこないました。この行動には50人が参加し、不服審査請求書は、介護保険72件、国保8件、後期高齢者医療22件、合計102件を提出しました。また、団体署名は後日追加をあわせて、県知事あて169件、後期高齢者医療広域連合あて168件、個人署名は622筆分を提出しました。



後期高齢者医療広域連合へ要請～「保険料引き下げを」「75歳窓口負担2倍化中止を」

県への要請のあと、後期高齢者医療広域連合の事務局に対して要請をおこないました。後期連合側は事務局長、総務課長らが対応しました。保険料の引き下げを求めたのに対して広域連合は、「コロナ禍で医療費が少なくなった。準備基金に積んでいる。2年に1度の保険料改定時に保険料抑制にあてる」と回答。参加者からは、「医療費が2倍になったらどれだけしんどいか考えてほしい」「家も傷んできて、クーラーも費用がかさむ。医療費2割に引き上げられたらくらしがいけない」「年金12万7千円、ひかれて11万円しか残らない。前立腺がんの治療にお金がかかる。高額療養費2万円も払えない」など苦しい胸のうちの吐露しました。



- 集団検診をやらないのはなぜか。～市町村の職員の手が足りない。検診業者が受け入れてくれない。検診項目が国保と後期とで違うので市町村負担しなければならない。
- 聴力検査をしてほしい。～国が検診項目を決めている。要望はしている。
- 人間ドッグが2年委1回しか受けられないのはなぜか。(和歌山市)～人間ドッグは市町村の事業で、広域連合はそれに補助をしている。
- 資格証明書は発行したことはない。
- 短期保険証の発行数 令和4年6月1日現在で217件(令和3年5月1日現在で206件)
- 差し押さえ件数 令和3年度 69件 460万8千円(令和2年度 88件 248万3千円)